# 全科協ニュース

URL http://jcsm. kahaku. go. jp

全国科学博物館協議会 ᡂ110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857 Fax.5814-9898 平成17年3月1日発行(通巻第201号)

## 特集 特別展・展示紹介

開館10周年記念

## 「恐竜たちの足音が聞こえるー中国 そして日本ー」展の開催

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 国府田 良樹

#### 1. はじめに

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、平成16年11月13日に開館10周年を迎え、これを記念して国際姉妹館である中華人民共和国内蒙古自治区博物館と共同で、開館10周年記念「恐竜たちの足音が聞こえるー中国 そして日本一」展を開催した。当館では、企画展を①人々の関心が高く話題性のある展示内容、②小学校高学年が理解でき、楽しめる展示内容、③展示を通じた資料収集及び情報ネットワークが期待できる展示内容、④常設展示を補完する展示内容とし、国内協力展、海外協力展、研究報告展の開催手法で、年3回実施している。現在開催中の「マンボウが夢みるブナの森一茨城県北東部の自然海・山・川物語」展(2月27日まで開催)が32回目の企画展で、その中で海外協力展は、本記念企画展で9回目となる。

## 2. 開館10周年記念「恐竜たちの足音が聞こえる 中国そして日本」展について

(1) 会 期:平成16年7月17日(出)~11月14日(月)(延105日)

(2) 会 場: ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画展 示室 (880m²)

(3) 主 催:ミュージアムパーク茨城県自然博物館 中華人民共和国内蒙古自治区博物館

(4) 共 催:NHK 水戸放送局

(5) 後 援:外務省、中華人民共和国駐日本国大使館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会

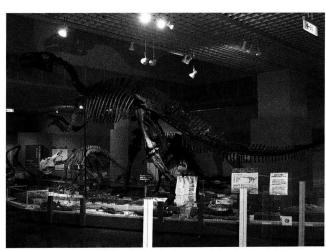
(6) 協力:ロサンゼルス郡立自然史博物館、テパパトンガレワ国立博物館、中国科学院

(7) 会期中の入館者: 195.452人(1日平均1.861人)

(8) 主な展示資料 (\*日本初公開)

#### ① 内蒙古自治区博物館関係

- ・イグアノドン類\*をはじめとする恐竜全身骨格
- ・湿地に生息した生物群 (熱河生物群) …恐竜類、鳥類、 両生類、爬虫類、昆虫類、植物化石
- ・松花江マンモスの牙(切歯)
- ・コエロドンタ全身骨格等
- ② 中国科学院関係
- ・テリジノサウルス類-アラシャサウルス、内蒙古竜全 身骨格\*
- ・原始哺乳類-エオマイア(世界最古の胎盤をもった哺乳類化石)\*
- ・毛状組織をもった翼竜類\*等
- ③ 日本国内の博物館関係
- ・日本の恐竜化石発見地15道県のうち、12道県の恐竜化石・これだけの恐竜化石の展示は初めて
- ・「日本竜ーニッポノサウルス」模式標本、日本国内産恐 竜化石の展示等



イグアノドン類をはじめとする恐竜類

Vol. 35, No. 2

- ④ 茨城県自然博物館収蔵資料
- ・内蒙古自治区博物館との共同調査による幅1.6m、全長 12mの2体の獣脚類恐竜足跡化石\*
- ・内蒙古自治区に生育する植物のさく葉標本
- ・ゴビ砂漠に生息しているトカゲ類の生体展示
- ・カブトエビ類の生体展示等
- ⑤ 第2部「環太平洋博物館ネットワークと茨城県自然 博物館のあゆみ |
- ・内蒙古自治区博物館、ロサンゼルス郡立自然史博物館、 テパペトンガレワ国立博物館からの展示協力資料
- ・茨城県自然博物館の開館から10年間のあゆみと今後10 年の進む方向

#### 3. 記念企画展開催構築のプロセス、問題の解決

(1) 記念企画展の決定から撤去まで (平成12・13年度)

館内協議→内蒙古自治区博物館に打診→教育庁協議→財 政課協議

 $\downarrow$ 

内蒙古自治区博物館 (内蒙古自治区文化庁) との事務連絡

↓ ワーキングチームの設置

展示計画の策定

1

1

内蒙古自治区博物館(内蒙古自治区文化庁)との事務協議(資料点数、賃借期間、賃借料、輸送・保険他)

(平成13年度)

意向書の締結、展示資料調査、現地調査(古生物・岩石) (平成14年度)

→ 植生調査の協議書締結、展示資料調査、現地調査(古生物・岩石)

(平成15年度)

協議書の締結、展示資料調査、現地調査(古生物・岩石・植生)

→ 国内資料借用計画の策定

(平成16年度)

国内資料輸送、ポスター、パンフレット、展示解説書等 の印刷

→ 展示構築(展示業者、輸送業者の決定)輸送資料点検(内蒙古自治区・北京・天津)

展示設営団の来日、輸送資料の開梱点検

1

展示工事・列品

1

オープニングセレモニー

→ 各種イベントの開催(自然教室「キャンプディノ」、 自然教室「恐竜の描き方講座」、自然講座「世界の恐竜 学者が答える恐竜Q&A」、自然講座「開館10周年記 念シンポジウム 恐竜の足跡をたどって一中国 そして 日本一」、自然観察会「ジュラ紀の化石をもとめて」、 自然講座「内蒙古の大草原と人々」)

展示撤去団の来日

Ţ

記念企画展の解体、借用資料再梱包、資料輸送、国内資料の返却

1

資料返却点検(天津・北京・内蒙古自治区)

- (2) 記念企画展開催に関しての問題点の解決
- ・開館10周年記念企画展計画時の平成15年は、中国国内では SARS が蔓延しており、モンゴル国ゴビ砂漠産恐竜化石などの代替資料による展示計画の見直しも検討したが、無事 SARS も収束し、予定通り内蒙古自治区博物館の資料を中心とした展示で進めることができた。
- ・記念企画展開催経費の確保に関しては、当館管理課、企 画課、ワーキングチーム等館をあげて本庁との調整を実 施し、開催経費を確保することができた。
- ・中国内蒙古自治区博物館との意向書、協議書案の策定に おいては、平成7年に実施した「絶滅動物からのメッセージ」展での協議書を基に案文を作成したが、現状に合った 内容での見直しを図り、現状に即した意向書、協議書と なった。
- ・平成7年度に内蒙古自治区博物館と共同開催した企画展の際締結した協議書では、随展団(会期中常駐する内蒙古自治区博物館職員)に関する条項があったが、今回は国際姉妹館であることを踏まえ、この条項を削除することで合意が成立した。
- ・借用資料の輸送にあたっては、平成7年度は随意契約で業者の選定を実施したが、今回は県登録業者を調査し、業務遂行が可能な業者を選定し、入札により業者を決定した。輸送内容や保険等業務量を把握し、輸送に関する設

計書を作成した。

- ・中国から輸入した木箱の返送にあたっては、病害虫対策 のため、中国国内法により熱処理が義務付けられており、 木箱の熱処理燻蒸施設への輸送、施工が必要となった。
- ・記念企画展の展示構成スタッフは、第1部の古生物部門では地学研究室の4名では足りず、他研究室からも応援をもらった。第2部は、3名+第1部メンバー2名で構築した。
- ・展示解説書のページ数、グラフィック数量も通常の企画 展より多く、執筆分担も通常の企画展以上であった。ま た、中国語、英語の翻訳では、通訳ボランティアを活用 したが、専門通訳があたる部分も多く、筆耕翻訳料負担 も大きくなった。
- ・当館と内蒙古自治区博物館の共同で実施した恐竜足跡化 石複製化と植生調査隊の調査成果など、姉妹館の交流の 成果を展示することができ、多くの来館者から好評を得 た。とくに、イグアノドン類の複製全身骨格、頭骨、骨 盤等の実物資料の展示では、内蒙古自治区博物館の努力 により世界初の展示が可能となった。
- ・日本産恐竜の借用にあたっては、日本国内から産出した 恐竜化石の収蔵先から好意的に借用を了解していただき、

- 日本の恐竜展としては初めて、12の道県から借用できた。 なかでもニッポンリュウは模式標本でもあり、貴重な実 物展示となった。
- ・第2部の「環太平洋博物館ネットワークと茨城県自然博物館のあゆみ」のコーナーでは、内蒙古自治区博物館に加え、ロサンゼルス郡立自然史博物館及びニュージーランドのテパペトンガレワ国立博物館からも展示資料を借用でき、インターナショナルな展示とすることができ、各国との友好も深まった。



恐竜足跡化石の展示状況

## 国立科学博物館の新館展示

独立行政法人国立科学博物館 新館 II 期展示主幹 都川 匡史

#### 1. はじめに

2004年11月2日、東京・上野の国立科学博物館に「新館」がグランドオープンしました。

国立科学博物館は、平成5年から上野地区にある展示施設の再開発に取り組み、新館の建設を進めてきました。その間、工期を第 I 期と第 II 期の2 段階に分けて工事を進め、平成11年4月には、まず第 I 期部分(展示面積2900㎡)が公開されました。そして、平成16年11月に、 I 期の2 倍以上の面積をもつ第 II 期部分(展示面積6000㎡)が完成し、構想から11年の歳月をかけて造られた新館展示のすべてが公開されました。

#### 2. メッセージ性

今回の新しい展示の製作にあたっては、科学の知見を知識として提示するだけでなく、博物館として伝えたいこと

をメッセージとして発信することにより、展示を見る人々がそれぞれ「考える」きっかけをつかむことができるような展示づくりをめざしました。

新館全体のテーマを「地球生命史と人類-自然との共存をめざして-」として、次のメッセージを発信しています。

『広大な宇宙の中の小さな惑星、地球。そこで、およそ40 億年前に生命が誕生し、変動する地球環境に適応して多様な生物が進化してきました。約600万年前に現れた人類は、次第に思考能力を高め、世界中に広がっていきました。やがて科学技術を発展させて、今では地球環境全体に大きな影響をあたえるようになっています。

新館には、地球と生命の共進化、そして人類の知恵の歴 史が展示されています。

生き物たちが暮らす地球の環境を守り、自然と人類が共

存可能な未来を築くために、私たちはどうすればよいか、 展示を通して皆と一緒に考えていきたいと思います。』

この新館全体のテーマおよびメッセージが、フロアごとの展示で示すそれぞれのテーマおよびメッセージにつながっています。

#### 3. 展示の特徴

新館全体は、地上3階、地下3階の展示階を有し、総展示面積約8900㎡、日本の科学系博物館では最大規模となります。この大きな空間に展開する展示はいくつかの特徴をもっています。

まず、第一に、最新の研究成果に基づき、良質の実物標本資料を中心に展示をしています。国内ではじめて公開する標本資料や当館研究者が近年携わっている調査研究に関する新しい成果を反映させた展示が数多くあります。これらの重要な展示物を通じて、「本物」による迫力を感じてもらうために、効果的な展示物の設置方法、演出照明等、これまでにない斬新な手法を用いて「感性を育む」展示をめざしました。

第二に、新館全体を自主的・選択的利用が可能な空間構成となるような工夫をしています。各コーナーを強制的な順路に沿って見学する構成ではなく、大きな基幹動線とそこから各コーナーにアプローチできる動線を設けています。それにより、多様な目的をもった来館者の方がそれぞれの欲求に応じて選択できて、自主的に展示を利用できる空間構成になっています。

第三に、ゆとりある展示空間の実現と展示室内での教育活動のステージづくりに工夫を凝らしました。各フロアに「ディスカバリーポケット」と命名した多目的スペースを設け、休憩や待ち合わせ、ガイダンス等に利用できるようにするとともに各種情報提供を行う場所として使用します。さらに、展示室内で行う教育活動の場として活用できる学習支援の拠点としても位置づけています。

第四として、情報技術(IT)を効果的に活用した展示解説になっています。コーナーごとの展示解説は、基本的な解説をグラフィックスで示し、詳しい解説や個々の展示物解説などを展示情報端末(タッチパネルモニター)により提供しています。この端末では、日本語の一般向け解説のほかに、子ども解説、英語、中国語、ハングルの外国語の解説が用意されておりさまざまな方に対応しています。また、これらの解説は、当館のホームページにアクセスする

と一部を除き読むことができます。さらに館内で見学するときに希望者に IC カードを無料で貸与します。このとき同時に配布される ID カードに記載されたパスワードを当館ホームページの所定の欄に入力と、自分の見たコーナーを確認することができます。つまり、当館の解説情報を自宅や学校などでの学習に利用することができます。

さらには、実際の展示づくりに携わった当館の研究者が 語る音声解説を携帯端末(PDA)で聞くことができます。 この携帯端末は有料で貸し出しています。これらの展示情 報はネットワーク化されていますので、更新と拡張が容易 に可能となり、博物館の情報が最新かつ充実したものにな っていくことができます。

このように、これまでの博物館にはない情報技術を活用 した新しい学習サポート機能を導入しています。

#### 4. 展示の工夫

#### (1) 展示演出

今回の展示では、実物標本を中心に展示し、それをじっくり見ることによって、大きさや美しさ、質感、重量感、存在感を受けとめてもらうことを狙いとしています。そのため、展示室の空間を比較的暗めにして、逆に展示物に焦点をあてた照明演出を採用しています。また、フロアによっては、朝から夕暮れまでの明るさの変化を感じてもらえるようなゆるやかな照明変化の演出、大型骨格標本の影がときおり変化を見せる演出、あるいは、水の中のできごとを理解してもらえるような水面のゆらぎや魚影の演出など、その空間がもつイメージをふくらませる工夫をした照明演出をしかけています。

#### (2) 解 説

当館だけでなく博物館においては、古くからグラフィックパネルのあり方が課題になっています。

今回の新館展示においては、上記1)の展示演出にも関係 しますが、実物標本をじっくり見るという観点から展示解 説のあり方を検討しました。

つまり、展示物をじっくり見てもらうため、グラフィックスによる表記を極力必要最小限に抑えた展示をめざすとともに、展示解説に階層性をもたせて、基本的な内容をグラフィックスで示し、より詳細な解説や個々の展示物についての解説は、展示情報端末で提供することにしました。

具体的には、各コーナーのグラフィックスでは、まず50 字程度のコピーでその展示コーナーが何を示しているかイ メージをつかめるように示したうえで、次に150字程度でそのコーナーの内容のエッセンスを解説しています。

映像についても内容を階層ごとに、大型映像、50インチ プラズマモニター、展示情報端末に整理をして提示してい ます。

#### (3) 動 線

展示の特徴のところで、自由・選択動線を採用したことを述べましたが、フロアごとにテーマとメッセージがありますので、それに沿って大きなストーリーがあります。各コーナーにはタイトルとその位置を示す番号が付けられています。その番号順に進めばストーリーに沿った見学ができますし、基幹動線をもとに、そこからそれぞれの展示コーナーへ自由にアクセスできるようにも工夫されています。こうした展示構成は、自由な空間で、自由に見学し、自分が本当に好きなことを発見できるように配慮されたものです。

ただ見学者を「自由にどうぞ」とすべてゆだねるのではなく、館としても「おすすめコース」を用意して効果的な見学となるような提案も行っています。この「おすすめコース」は現在、10コースあり、館内でコースごとにリーフレットを提供するとともに、当館のホームページからも入手できるので、事前にその内容を知り、検討することも可能です。

#### (4) 新たな活動

各フロアにできたディスカバリーポケットを拠点として、 展示制作にかかわる話や研究者自身の研究内容などを紹介 したり、展示室を案内して展示解説を行う「ディスカバリ ートーク」というプログラムを新たに開始しました。

また、それぞれのフロアには、展示学習支援ボランティアを配置して、見学者の質問を受けたり、ガイドを行っています。

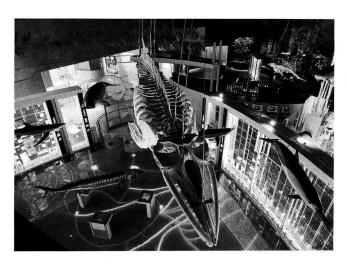
このように、館と見学者のコミュニケーションを重視した活動を展開しています。

#### 5. 展示構成

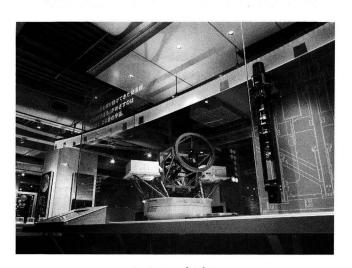
- 3階 「大地を駆ける生命ー力強く生きる哺乳類と鳥類を見るー」「たんけん広場ー発見の森ー」
- 2階 「科学と技術の歩み-私たちは考え、手を使い、創ってきた-」「たんけん広場-身近な科学-」
- 1階 「地球の多様な生物たちーみんな、関わりあって生きているー」
- B1階「地球環境の変動と生物の進化ー恐竜の謎を探るー」
- B2階「地球環境の変動と生物の進化-誕生と絶滅の不思

議一」

B3階「宇宙・物質・法則-自然の"しくみ"を探る-」 「科博の活動-標本資料に基づく研究の成果を、社会 に還元する-」



1 F 俯瞰 (フカン)



B3F すばる

#### 美術

## はく製

〈各 種 生 物〉 剝製・骨格標本・レブリカ 加工/販売/リース



## 靈 東洋近代美術研究所

製作所 〒 272-0816 ☎047-337-5678 千葉県市川市本北方2-18-1 FAX 047-338-1978

本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 **☎047-374-1564** E-mail:toyobken@taupe.plala.or..jp

## 新しい視点をさがして

鳥羽水族館 高林 賢介

#### はじめに

水族館にはさまざまな使命や機能があるといわれますが、 基本は「しっかりと生きものに向き合ってもらう」ことと 自分なりの発見をしてもらう」ところにあるでしょう。し かしながらヒトは思いこみの強い生きものですから、いつ もと違った見方や気づきをするのはなかなか苦手なようで す。そのため私たちは生態展示やハンズオンといった魅力 的な手法による解説等を試みながら、日々新しい視点を探 し続けています。ここでは鳥羽水族館で平成16年度におこ なわれた、少しユニークな企画展示とプログラムについて ご紹介させていただきます。

#### 企画展 ボーンズ博士のホネ研究所

「隠された秘密は覗いてみたいもの」。そんな発想から、いつもは見えない「骨」をテーマに扱ってみました。当初は斬新な展示方法を探していたにもかかわらず、出てきたイメージといえば退屈な陳列から抜け出せないものばかりでした。そのため、まずはこれを拭い去るために何度もアイデアラッシュをおこなったのです。担当スタッフは営業 邪と飼育研究部の混成チームなのですが、お茶を飲みながら自由に言葉を交わせる雰囲気が面白い発想を生みだしたのだと考えています。それは架空の骨研究家「ボーンズ博士」を創造して、見学者には彼の研究室にディスプレイされた怪しい研究成果をのぞいてもらおうというものだったのです。

こういった「ひたしこみ展示」にとって雰囲気づくりは 命です。そこで家具の質感や小物類には気をつかい、買っ



ボーンズ博士のホネ研究所

てきたものであってもひと手間を加えました。それは単に 雰囲気だけでなく、小物からも博士や周辺のストーリーを 語ってもらいたいという願いがあったからです。展示解説 はあえて水生動物特有のものについて絞りこみました。ま た展示のスパイスとして担当者のちょっとしたお遊びを取り入れ、引き出しを開ければ触れる骨があったり、ファイルケースには秘密の資料を入れるなど「探しただけ何かが 見つかる」といった宝探し的な要素も盛り込んだのです。

これらのこだわりや仕掛けの効果か?モニターでとらえた見学者数と滞在時間は過去の展示とくらべて明らかに長く、アンケートにも見学者それぞれのレベルで気づきがあったことが記されていました。中には「博士に会いたい」といった、展示の雰囲気を気に入ってくれたコメントも多く見うけられました。一方で解説が少ないといった苦情や数々の提言があったのも事実です。この点については評価からフィードバックしたものを約半年後にリニューアルオープンとして対応しています。

さて鳥羽水族館における企画展の特徴は、ほとんどが手作りであることとフットワークの良さにあります。それは立案から展示物製作のすべてに及びます。例えば今回の場合ですと古い家具探しから始まり、足りないものについては自ら電動工具を握っての大工仕事になりました。標本も同様に透明化標本からペリカンの骨格標本まで必要に応じて製作しています。こうした自前の展示物製作は、外注したものに比べるとどうしても安っぽくなりがちです。しかしこういった苦労や工夫が完成した展示に勢いを与え、見



企画から製作まで全て手作り

学者の視点にたった展示方法を考える訓練にもなっている と信じています。ちなみに展示製作費用はたいていが総額 150万円以内で賄われています。

この企画展、後半は展示室を飛び出して「にわか博士」による骨のトークショーなどもおこなわれて好評を博しました。こうして初めは7名で生みだしたものが次第に広がりをみせ、最後には多くのスタッフの手によって育まれる展示になったのです。(平成15年7月12日~平成16年11月7日まで開催/途中3月に追加展示しリニューアル)

#### 宿泊プログラム トバスイ ノ キャンプ/お泊まり水族館

「夜の水族館はどんなだろう?」「生きものは何をしている?」そんなシンプルな発想はとても大切です。私たちの昼夜ですら大きく様変わりするのですから、水中の世界にすむ生きものとなればなおさら興味深く、新しい視点や発見の多さに気づくはずです。

これまで水族館に宿泊するプログラムは、海外において早くから教育目的として実践されていました。しかし鳥羽水族館での導入はそうでなく、旅行業社とのタイアップイベントとして始まったものです。そのために現在でも募集方法は水族館主催と旅行業社主催とがあり、集客については多大な労力をかけずに運営に力を注げるメリットを享受しています。



大水槽を前に眠る

このプログラムの主な対象は小学生です。彼らは新しい 刺激を柔軟に受け入れることのできる存在ですが、そんな 彼らも身を縮めてしまう環境があります。それは保護者の 存在です。そのためここでは最少限の大人しか受け入れず、 できるだけ子どもたちだけの空間づくりができるよう目指 しています。見ず知らずの同世代100名と過ごす夜はエキサ イティングなもののようで、高揚した声は夜遅くまで途切 れることがありません。また2年前からは、大人向けに特 化したものをおこなうようになりました。これは子どもの プログラムを知った方々から「なぜ大人向けはないのか?」 というたくさんの声をいただいたことがきっかけでした。 ふたを開けてみると人気は高く、主に20代~60代くらいの 女性を中心に広くご参加いただいています。ちなみに平成 16年度の実績はこども向けが36回2194(うち引率大人110) 人、大人向けが3回123人となっています。

年齢を問わずこのプログラムには3つのキーワードがあります。それは自由・刺激・会話です。参加者にとっては滅多にない機会ですから、それぞれが思い描くようにすごせるようゆとりを持ったプログラムづくりを心がけています。とくに、わがままな大人の方々には自由時間を長くとり、イベント参加は選択性にしています。次に参加者が思いもよらなかった驚き(刺激)を提供できるように工夫しています。とくに子どもたちには動きのあるアクティビティを、大人には知的好奇心をくすぐるレクチャーというスタイルで使い分けています。そして会話ですが、これが最終的な満足度を決める鍵になるようです。話の機会を増やすことは、私たちスタッフを"参加の不安をうち消してくれる存在、そして新しい刺激を与えたり疑問を解いてくれる頼もしい存在"に高めてくれるのです。

今や当たり前のようになったこの企画も、当初は安全面が問題として挙げられていました。それは参加者の安全というよりは飼育動物の面についてでした。具体的にいえば展示生物へのいたずらはないか、備品の盗難は大丈夫かといったことで、とくに大人向けのプランでは企画段階で飼育係との調整が難航しました。日頃から、万が一があってはならないという立場で仕事をしている者からは、この企画の存在そのものが危ないものに感じられたのでしょう。そして最終的には参加者に事前説明を十分することや、巡回の強化、そして性善説を信じてしまおう、といったところで落ち着いています。幸いなことにこれまで大きなトラブルはありません。

#### おわりに

このように私たちは小さいながらも新しい視点を探しています。こういった取り組みが、様々な年齢の方に、生きものに興味をもつきっかけを与え、そこから学びが生まれることを期待しています。さらに今後は環境教育の場として、学ぶ意志を持った方々をサポートし、自然と人との関係について自らの考えのもと、行動を起こせる人を輩出できるまでになればと願っています。

#### 

#### タイで、津波博物館を建設へ

2004年12月26日に起きたスマトラ沖大地震を受けて、このほどタイ政府は、「津波博物館」を建設することを閣議で決定した。建設計画地はまだ決まっていないものの、閣議決定を受けて、芸術局内に準備室(室長:アーラック・サンヒッタクン芸術局長が兼任)が発足し、早くも被災状況を撮影した写真やビデオ映像の収集が始まった。同館の常設展示では、この大地震によってもたらされた被災地域の自然環境の変貌、アンダマン海の海底地形の変化、プーケット島を含むタイ南部で被った人々の被災状況を紹介することになっている。開館はスマトラ沖大地震を記念して、2005年12月26日を予定。

 $http://www.thaiembdc.org/pressctr/pr/Pr10Jan05.\\ pdf$ 

#### スリランカで、津波博物館を建設へ

タイ政府と同様、スリランカ政府もスマトラ沖大地震が もたらした被害の実態と復興過程を後世に伝える「津波博 物館」を建てる方針を決めた。建設場所はまだ正式に決ま っていないものの、消息筋によると、津波によって乗客800 人が死んだ列車脱線事故の現場であるスリランカ南部のセ ルワッタになる見通しだ。

http://www.chn.ir/english/eshownews.asp?no =4634

#### 米二ューメキシコ州で、熱気球博物館が2005年秋に開館

ニューメキシコ州最大の都市であるアルバカーキは、毎年10月に行われる国際熱気球フェスティバルの会場として有名であるが、同地で「アンダーソン・アブリューゾ国際熱気球博物館」が2005年10月に開館する。約5,700㎡の延べ面積をもつ同館では、熱気球の歴史を紹介した展示室(9室)、専門図書室、会議場、レストラン等が設けられることになっている。立地場所は、国際熱気球フェスティバルの会場の隣地。

Anderson-Abruzzo Albuquerque International Balloon Museum.

http://www.cabq.gov/balloon/

米ワシントンDCで、新しい子ども博物館が2008年に開館

2008年7月に、新しい子ども博物館「National Children's Museum」がワシントンDCで開館する。同館は、30年の歴史をもったキャピタル子ども博物館(2004年8月閉館)が、ワシントン市内の新しい場所に移転し、新築される施設だ。約13,000㎡の延べ面積をもった施設では、展示施設の他、子どもを対象とした芝居やコンサートが上演される350席の劇場、レストランやミュージアム・ショップ等が設けられることになっている。ホームページで申し込めば、同館の最新の動向がメールで送られてくる(申し込み先:http://www.ncm.museum/form4072/form.htm)National Children's Museum.

http://www.ncm.museum/

#### 米国立自然史博物館、新しい海洋科学センターを設置へ

ワシントンDCの国立自然史博物館は、このほど新たに海洋科学センターを設けることになった。同センターは、米二大電力会社の一つである AES 社の創業者のロジャー・W・サント氏から総額1千万ドルの寄付を受けて設けられることになっており、サント氏はその名誉センター長になることも決まっている。海洋科学センターでは、主にインターネットを使った教育プログラムの開発や、同館が所蔵する約3,300万点の海洋生物標本のデータベース化と公開を主な事業となることが計画されている。2008年には、国家海洋大気局の協力を得て、海洋科学をテーマにした企画展を開催する予定だ。

Center for Marine Science, National Museum of Natural History.

### 米オレゴン大学自然史博物館で、オレゴン州の地質を紹介 した常設展をオープン

オレゴン大学自然史博物館では、オレゴン州の地質の形成を紹介した常設展示を2005年2月11日にオープンした。同展では、オレゴン州の地質の4つの大きな特徴が取り上げられている。「コロンビア台地」「西海岸」「オレゴン州の西部渓谷地帯」「グレートベイスン」(西海岸シエラネヴァダ山脈の西側に広がる大盆地)。

Oregon - Where Past is Present. University of Oregon Museum of Natural History. http://natural-history.uoregon.edu/

### 米コロラド大学自然史博物館で、フロリーサント化石層を 紹介した企画展を開催

コロラド州のフロリーサント化石層国定公園のフロリーサント化石層からは、始新世 (Eocene) に生きていた約1700種の動植物の多様な化石が発見されており、その多くが完全な形を残して、コロラド大学自然史博物館で収集されている。それらの化石のうち、今まで公開されてこなかったものが、現在同館で開催中の企画展「石のレース:フロリーサント化石」で初めて紹介されている。会期は2005年夏まで。

Stone Lace: The Fragile World of Florissant Fossils. University of Colorado Museum of Natural History. http://cumuseum.colorado.edu/Exhibits/StoneLace/

#### アメリカ自然史博物館で、室内放蝶園がオープン

アメリカ自然史博物館では、熱帯雨林で生息する生きたチョウが飛び交う特設の放蝶園が現在設けられている。今回のイベントは、1998年の冬に続いて2回目のもので、約500匹のチョウが飛び交っている。観覧者が中に入れるビバリウムの規模は約122㎡。会期:2004年10月9日~2005年5月30日。

The Butterfly Conservatory. American Museum of Natural History.

http://www.amnh.org/exhibitions/butterflies/

## ナショナル・ジオグラフィック協会で、地図作成の歩みを 紹介した企画展が開催中

ナショナル・ジオグラフィック協会では、同協会での地図作製の歩みを紹介した企画展が開催中である。「地図作製:紙とピクセルを使って」と題した同展は、創立以来、116年にわたって同協会の発展とともに発展してきた地図作製の歩みが紹介され、さらにコンピュータを使った最新の地図作製技術も紹介されている。会期:2004年10月28日~2005年2月13日。

Mapping With Paper and Pixel. National Geographic Society.

http://www.nationalgeographic.com/museum/

#### グリーニッヂ国立海事博物館、約4500点の収蔵品を放出

グリーニッヂ国立海事博物館は、紛れもなくイギリスが世界に誇る博物館のひとつであり、その収蔵品の点数は250万点を超えると言われている。膨大な点数を誇り、しかも多くが今では同館のオンライン・データベース(http://www.nmm.ac.uk/collections/)でも見ることが可能だが、このほど約4500点の収蔵品を放出することになった。放出の対象になっているもののうち、多くが国内の他の博物館に譲渡されることになっているが、少なからぬ数のものにまた廃棄される運命が待ち受けている。

同館のスポークスマンは言う。「収蔵品が捨てられるのは 見るに忍びない。できればこんなことをしたくないけど、収 蔵品の中には歴史的に貴重でないものがあることは確かで、 それらは場所をとっていることも事実だ」。 続けて「われわ れは、捨てるだけでなく、新たに収集も継続していく」と。 イギリスの博物館世界の利益を代表するイギリス博物館 は、今回の件に重大な関心を示し調査を開始した。

National Maritime Museum.

## 英@ブリストルに、学校の科学担当教師を対象とした教育 支援センターが2005年 1 月にオープン

ブリストル市の科学館「@ブリストル」に、小学校から 高校レベルの科学担当の教師を対象とした教育支援センターが2005年1月18日にオープンした。実験室、準備室、講義 室、図書室、スタッフルームを備えた同センターでは、教 室での科学系教科の支援を目的に、新しい教授法の研究開 発をはじめ、新しい教授法の紹介、コンピュータやインターネットを使った教授法、教科分野の最新の科学情報を、 実験や講義、インターネットなどで提供している。地元の ブリストル大学とプリマス大学の協力を得て運営されている同センターは、英政府の教育・職業技能省とウェルカム 財団が、総事業費5100万ポンドをかけて、イングランド地 方に整備した九つの教育支援センターの一つである。Science Learning Centre, @ Bristol.

http://www.at-bristol.org.uk/About/Press/251 slcsw.htm

http://www.at-bristol.org.uk/education/slcsw.ppt http://www.sciencelearningcentres.org.uk

\* (やすい・りょう) E-post: RGYasui@obirin.ac.ip

## 3月4月の特別展

開催館	展 覧 会 名	開催期間
むつ科学技術館	巡回展「ナーノの冒険"バイオ編""IT編"」	11月3日~4月14日
秋田県立博物館	企画展「秋田の手しごと」	1月29日~4月10日
山形県立博物館	「おまけになった生き物」	4月30日~6月12日
ふくしま森の科学体験センター	冬の特別企画展「科学市場」	12月2日~3月2日
	春休み特別展「地球環境展」	3月中旬~4月中旬
郡山市ふれあい科学館	企画展「大野裕明のオーロラ写真展」	1月2日~3月31日
	企画展「星座物語」	4月1日~5月31日
栃木県立博物館	テーマ展「行列図の世界」	2月11日~3月31日
	テーマ展「室町時代の狩野派」	2月11日~3月31日
	テーマ展「栃木県の脊椎動物化石」	7月10日~3月31日
群馬県立自然史博物館	「アフリカの風」~小倉寛太郎サファリ3000日~	3月19日~5月8日
さいたま市青少年宇宙科学館	企画展III 赤道直下の魚展	1月29日~3月21日
所沢航空発祥記念館	春休み特別展「航空機の心臓 エンジンの仕組みと歴史」	3月5日~4月3日
埼玉県立自然史博物館	企画展「パラサイトな植物たち」	1月6日~3月31日
千葉県立現代産業科学館	平成16年度千葉県立美術館・博物館合同事業 企画展示 「竹」なが〜いともだち	3月12日~5月8日
交通博物館	特別展「東京駅開業90周年記念~東京のターミナル形成史」	2月8日~5月29日
科学技術館	サイエンスカーニバル '05 -ハードデスクのひみつ-	3月26日~4月5日
国立科学博物館	特別展「恐竜博2005-恐竜から鳥への進化-」	3月19日~6月12日
機械産業記念館(TEPIA)	「e-ライフ展」PART II	1月14日~3月17日
	「e-ライフ展」PART III	4月8日~7月22日
船の科学館	企画展「小笠原へ行こう!」	2月11日~3月21日
たばこと塩の博物館	企画展「時代を映す街角のアートー日本のたばこポスター 1901~2000」	3月5日~4月17日
	企画展「寄せあつめ東海道」(仮称)	4月23日~5月22日
馬の博物館	「源平合戦を馬が行く」	2月16日~4月17日
	春季特別展「はにわうま」	4月23日~6月5日
横浜こども科学館	企画展「@! (アッと) おどろく 3 D展」	3月3日~4月4日
横須賀市自然・人文博物館	企画展示「中国大陸の蝶」	2月11日~5月29日
神奈川県立生命の星・地球博物館	企画展「収蔵資料展」	4月29日~5月29日
新潟県立自然科学館	春の特別展「発見!ふるさとの大地」ーにいがた地質情報展ー	3月19日~4月3日
黒部市吉田科学館	巡回写真展「自然から学ぶ」	3月30日~4月10日
富山市科学文化センター	写真展「すばらしい自然を」	2月19日~4月3日
佐久市子ども未来館	「びっくり!ドッキリ!なるほどサイエンス PART 2」	12月23日~5月8日
岐阜県博物館	資料紹介展「ようこそ 昆虫の世界へ!」	4月23日~6月26日
中津川市鉱物博物館	私の展示室「トリバネチョウー世界三大美蝶-」	4月17日~7月10日
豊橋市自然史博物館	「平成16年度新着資料紹介展」	2月5日~3月31日
	収蔵資料紹介展「穂積俊文氏寄贈甲虫コレクション」	2月12日~4月3日
	「5300年前から来た男~アイスマン展」	4月19日~5月8日

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
トヨタ博物館	企画展「人がクルマに恋した世紀-トヨタ博物館の秘蔵展」	3月15日~9月25日
滋賀県立琵琶湖博物館	ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しよう〜プランクト ンの不思議〜」	12月23日~4月10日
みなくち子どもの森自然館	特別展「古琵琶湖時代の日本-第三紀鮮新世の化石-」	11月30日~3月13日
伊丹市昆虫館	企画展「伝説の昆虫雑誌インセクタリウム」	12月15日~3月7日
姫路科学館	「姫路科学館館蔵品展」	2月26日~3月31日
明石市立天文科学館	「星・宇宙を描く年賀状展」	2月1日~3月6日
橿原市昆虫館	第16回企画展「チョウのはねの不思議」~藤森信一コレク ション公開~	3月15日~5月15日
<b>倉敷市立自然史博物館</b>	特別陳列「第12回しぜんしくらしき賞作品展」	12月12日~4月3日
	「みんなで作る自然の展示会」	4月26日~6月12日
広島市こども文化科学館	「ネイチャーフォト写真展」	3月5日~3月27日
	「たのしい工作室・科学教室の一年のあゆみ展」	3月23日~4月10日
広島市健康づくりセンター健康科 学館	企画展「エコロジー de ヘルシー」	1月5日~3月27日
広島市江波山気象館	「あそぼう!ためそう!!風船ワールド」	1月15日~3月20日
愛媛県立博物館	テーマ展「えひめ生きもの写真展」	2月3日~3月24日
	テーマ展「愛媛各地の岩石」	4月1日~5月25日
愛媛県総合科学博物館	「別子銅山写真展〜日和佐初太郎のレンズが語る懐かしき時 代〜」	3月5日~5月15日
福岡県青少年科学館	特別展「ウルトラマン・ワンダースペース」〜光の国の大 冒険〜	2月19日~4月10日
	企画展「音戯(おとぎ)の世界」〜音とあそぼう!音を楽 しもう!〜(仮称)	4月16日~5月15日
宮崎県総合博物館	特別展「~街角の民俗学~近くてなつかしい昭和展」	2月19日~3月27日
沖縄県立博物館	特別展「いま・むかし、おもちゃ大博覧会〜入江正彦 児 童文化史コレクション」	2月15日~3月13日

## 

#### ○「緑の募金運動」に対する協力依頼について

このたび、(社)国土緑化推進機構及び林野庁から下記のとおり「緑の募金」に対する協力依頼がまいりました。詳細につきましては、(社)国土緑化推進機構(電話0120-110-381 HPアドレス http://www.green.or.jp/)までお問い合わせ下さい。

#### 緑の募金運動へのご協力を

平成十六年は、度重なる台風の襲来や新潟県中越地震等により大規模な災害が多発し、多くの尊い人命が失われたほか甚大な被害を被り、森林の重要性が改めて認識された年になりました。これを契機として改めて森林の大切さを見つめ直し、国民が一体となって森林の整備・保全活動を

行っていくことが重要となっています。

これらを踏まえ、かつ緑の募金法制定10年を迎えるに当たり、募金主体である俄国土緑化推進機構と緑の募金法を所管する林野庁とが一体となって、募金活動の拡充を図ることと致しました。

緑の募金は、全国各地の森林ボランティア活動等に活用されており、このような国民参加の森林づくりが発展するとともに、国民の皆様が森林への理解を深めていただくことを強く期待しています。

全国の科学博物館の皆様方には、本運動の趣旨をご理解 頂き、募金箱の設置等について特段のご配慮をお願いいた します。

平成十七年二月 林野庁長官

※世界の化石・ 鉱物•恐竜•化石 人類 • 動物骨格 標本及び模型の 輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

## 燃 ゼネラル サイエンス コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-11-14 赤坂ベルゴビル802 TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

## ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



地学標本(化石·鉱物·岩石) 古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

●常設ショールーム:紀伊國屋書店·新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

### **翻東京サイエンス**

〒151-0051 東京都渋谷区干駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスピル TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745

http://www.tokyo-science.co.jp E-mail:info@tokyo-science.co.jp

考えています。いつもトータルで ノムラは よいう意味 人が集う空間



集客環境づくりの調査・コンサルティング、企画・デザイン 設計、制作施工ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

NOMURA http://www.nomurakougei.co.jp

株式会社 75 村工 藝社 本社:東京都港区芝浦4-6-4 電話03-3455-1171代)



## 高品質表現力

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号 TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050 http://www.kokoro-dreams.co.ip/

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・ 監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

## **★**株式会社 **丹青社**

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表) 札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡 URL http://www.tanseisha.co.jp

#### 省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム

## メディアグローブ、誕生

メディアグローブは世界で初めてフルカラー 投映を可能にした小型・高精細のデジタル プラネタリウム。さらにドーム全天に高画質な CG映像を投映するマルチ投映機能を持ち、 さまざまなシーンで活躍します。

▶各種イベント等にも対応。レンタルもご相談ください。

### コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル12階 TEL (03) 3349-5301 大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階 TEL(06)6110-0570 東海車業所 〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570

URL:http://konicaminolta.jp/planetarium/

#### 全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館 チーフディレクター 河野光子 滋賀県立琵琶湖博物館 企画調整課長 高橋啓一 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

資料課長 國府田良樹

独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課長 井上透 独立行政法人国立科学博物館 展示·情報部情報サービス課専門職員原田紀子

#### 全科協事務局

国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課 齊藤 健 Tel.03-5814-9857 Fax.03-5814-9898

発行日 平成17年3月1日

発 行 全国科学博物館協議会©

☎110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印 刷 島崎印刷株式会社